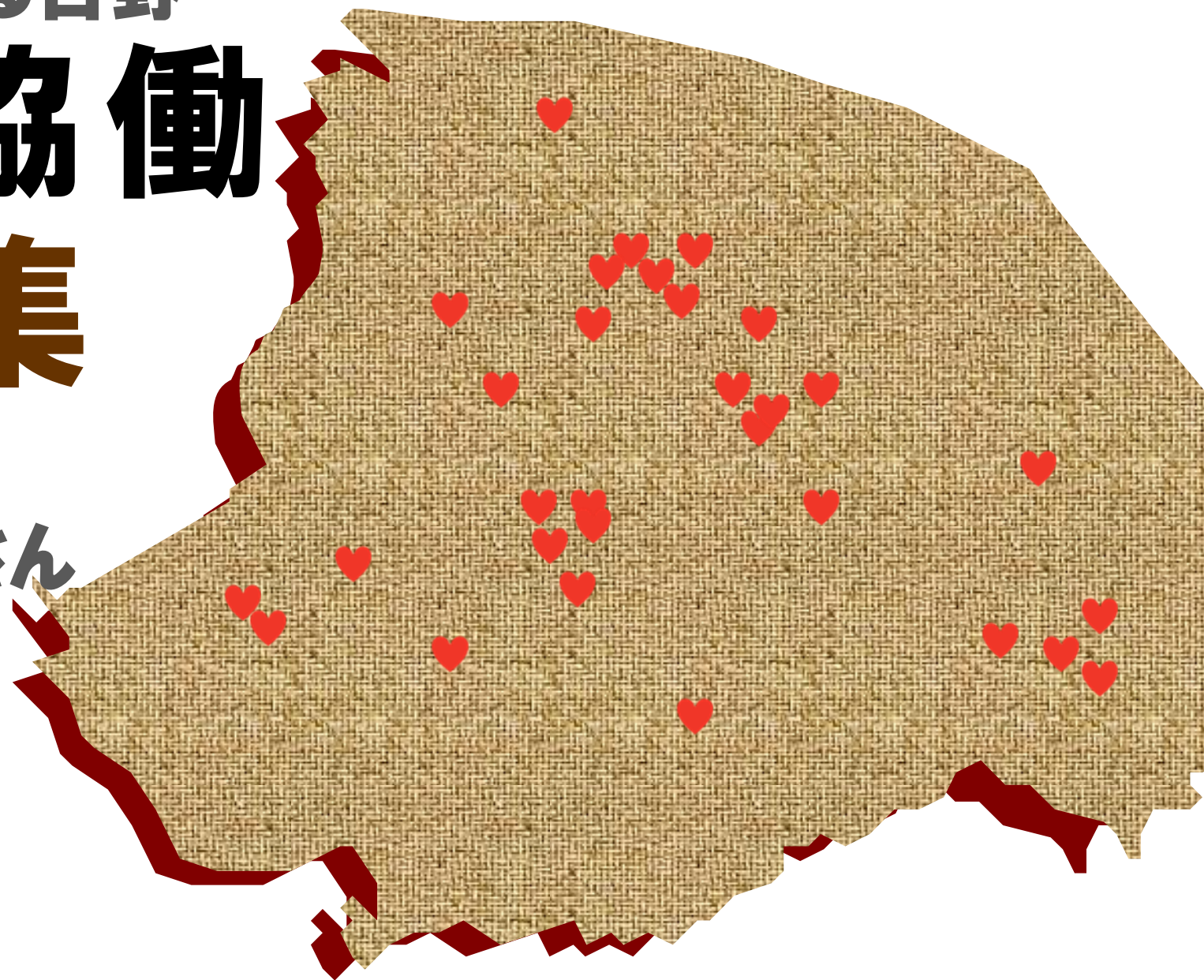


あなたとつくる日野

公民協働 事例集

なんだかたくさん
ワンだフル♪



まちの雰囲気って何からつくられるでしょう。
ずばり、そこに住む人。
私たちがつくっているのです。

日野市のこれからの 50 年を見据えて

少子高齢化やデフレ等の厳しい社会状況に加え、市内の大工場の撤退が相次ぐ中、市の財政状況はますます厳しくなっています。そのため、これまでのような行政サービスを提供することは難しい状況となっております。

日野市は今後、財政の厳しい中、コストダウン等といった業務効率化をより一層進める一方、支援が必要な方々へのセーフティネットに配慮しつつ、まちづくりの担い手である市民の活力を活かした新たなまちへとシフトしていく必要があります。

また、東日本大震災による日本全体へのダメージは、これまでの日本人の価値観を大きく揺るがしました。現在はまさしく生き方の転換期であると言えます。

日野市を取り巻く状況が次々と変化するなか、市民の皆さん一人ひとりが日野市の将来像を描き、それに向かってどのように暮らしていくのかを考えていく時期が来ています。

地域で見かける人 声を交わす人
その人達が地域の個性をつくります。

「公民協働」ってどんなこと？

公民協働～市民参画・協働を深める～

市では、地域の一員としての自覚と責任をもってまちづくりに携わる市民を「公のことを考える市民」と考え「公民」と呼びしています。

「公民」の皆さん同士で、また「公民」と企業、学校、市役所等で一緒になってまちをつくっていければ、ということが「公民協働」の考え方です。

例えば、まちに出ていただくと、地域で色々なまちづくりがされているのが見られます。

お子さんの通う学校には、学校環境を整えようと生徒と交流する人がいます。あなたの通勤する道に花を咲かせようと日々手入れする人もいます。災害が起きた時に備えて地域の災害対策を考えている人もいます。大きな取り組みでは、組合をつくり区画整理を行ってくれている人もいます。

このように、自分のことに加えて地域のために頑張っている人たちのおかげで、住みよく暮らしやすいまちがつくられているのです。

これまで培ってきた市民参画・協働を更に深めた「公民協働」により、個性豊かなまちをつくっていきたいと考えています。

地域のつながりが大切

戦後・高度成長時代から新たな人口が流入し続けた日野市を含む都市部には、地域の間人間関係で煩わされないよう、互いに干渉しないで生活する、という風潮がありました。

またインターネットの利用をはじめ、現代では、住んでいる地域に縛られない、趣味や考えを共有した人同士の間人間関係が築かれたりもしています。

しかし東日本大震災を機に、昔ながらの地域に根ざしたつながりが見直されています。今後の超高齢社会への対応や災害に強いまちづくり、子どもを安心して産み育てていけるまちづくりのためには、地域の中でお互いを支えあうつながりが欠かせません。

地域のつながりの基礎となる自治会活動をはじめ、地域では人と人との絆を育む活動がたくさんあります。気軽に顔を出して、地域の知り合い・友達をつくりませんか。

**地域にでて活躍する人が増えれば
絆が広がり楽しいまちになる！**

実は…

地域のつながりを深める活動は**既にいくつも**行われているのです。

ほんの一部だけ紹介します。

公民協働事例 目次

01 日野市健全財政を考える会〔柱1〕※

02 ひの市民活動団体連絡会〔柱1〕

03 平山台交流の会〔柱1〕

04 なお「土曜のひろば」遊学会〔柱2〕

05 四中地区・オヤジの会〔柱2〕

06 NPO 法人やまぼうし〔柱3〕

07 多摩平の森自治会〔柱3〕

08 多摩平四丁目自治会〔柱3〕

09 赤レンガプロジェクト〔柱4〕

10 公民館利用者交流会(るーぶ)〔柱4〕

11 倉沢里山を愛する会〔柱5〕

12 ひの・まちの生ごみを考える会〔柱5〕

13 豊田団地自主防災会〔柱6〕

14 石坂ファームハウス〔柱7〕

15 NPO 法人日野人・援農の会〔柱7〕

掲載順は、柱ごと・あいうえお順です。

このほかの事例についてはお問い合わせください。

※「柱」とは、「2020 プラン」に定められた、日野市がめざす将来像を実現するための考え方の基礎となるものです。ここではそれぞれの活動が主にどの柱と関連しているかをお示ししました。

「2020 プラン」や「柱」については次ページをご覧ください。

「2020プラン」とは

日野市の最上位の計画が、第5次日野市基本構想・基本計画（2020プラン）です。

2020プランは、多くの市民の皆さんに参画やご意見をいただきながらつくられたものです。

日野市がめざす将来像「ともに創ろう 心つながる 夢のまち 日野～水とみどりを受けつごう～」を実現するために、7つの「まちづくりの柱」が定められています。

柱1 参画と協働のまち

柱2 子どもが輝くまち

柱3 健やかでともに支えあうまち

柱4 日野人（ひのびと）・日野文化を育てるまち

柱5 自然と調和した環境に優しいまち

柱6 安全で安心して暮らせるまち

柱7 地域の魅力を活かした活力あるまち

これらの柱のもと、日野市は公民協働でまちづくりを進めていきます。

2020プランの詳細は、冊子または日野市ホームページ（<http://www.city.hino.lg.jp/>）をご覧ください。

次世代にツケは回さない！

活動のきっかけ

「ひのいいプラン2010」で提言した内容「市民に対してわかりやすい財政白書を提供する」を実現するために、「ひのいいプラン2010」策定に携わった市民委員を中心に発足しました。

活動内容

「市民が市民のためにわかりやすく作った 日野市財政白書」の作成や、同白書を解説した動画を動画サイトに掲載する等して、日野市の財政をわかりやすく紹介する活動をしています。（「日野市財政白書」でインターネット検索してみてください。）

また、日野市基本構想・基本計画や行財政改革大綱の策定等に参加して、市民や民間視点から行財政改革の提言を行っています。

さらに、総務省や早稲田大学のシンポジウム、近隣市や荒川区等への講演会を通じて、日野市の市民活動を紹介しています。

活動のやりがい

私たちの生活の場であり、子どもたちにとってかけがえのない故郷である日野の財政や行政を調査、分析し、これ以上、子孫に今の生活のツケを回さないように提言していけることがやりがいです。

また、政府や東京都、他の市町村、大学、マスコミ等から高く評価いただき、表彰等を受けたことも励みになっています。

日野の未来を一緒に考えるため、今後はもっと若い世代の方々に参加して頂けると嬉しいです。



成果を公表しています
是非ご覧ください





ひの市民活動団体
連絡会ロゴマーク

協働のまちづくり

～市民活動の発展に向かって～



支援センター祭りで近所の方と餅つき大会・フリーマーケット

活動のきっかけ

平成15年4月、「日野市を住みよいまちにしたい」とのそれぞれの思いから活動する団体の集まりとして結成され、19団体からスタートした会は、現在33団体加盟の会となっています。

ひの市民活動支援センターを拠点に、団体が協力しあいながら、市民活動全体の底上げに役立つ活動を行っています。

私たちに相談を♪

ひの市民活動団体連絡会は、市民団体の集まりです。市民活動の中でお悩みごとがありましたら、ご相談ください。他の団体から活動への新たなヒントが得られ、互いに協力することで活動の幅が広がります。



勉強会で情報交換しています

活動について

市民活動全体の底上げに役立つ活動として、勉強会や情報交換会の開催、団体への各種情報提供等を行っています。

NPO法改正についてや新寄付税制についてなど、日々変化する周辺環境に対応できるよう、毎年勉強会を開催しています。

また、市民活動団体が活動を行うには、市民の方々に活動を身近に知ってもらう必要があるため、各種イベントに参加したり、ひの市民活動支援センター内で、支援センターまつりを開催し、つきたてのおもちをご近所の皆さんと一緒に食べながら交流を深めています。

他に頼らず、できる範囲でポチポチと楽しく！



活動のきっかけ

平成20年に旧平山台小が平山台健康・市民支援センターとして開放された際に、センターの有効利用と住民交流を目的に、平山一丁目、二丁目、三丁目の自治会で平山台交流の会を作りました。「他に頼らず、できる範囲でポチポチと楽しく」を合言葉として、平山台健康・市民支援センターを中心に地域交流活動を続けています。活動費用は自治会の助成金と会員・住民の募金により賄っています。

活動内容

みんなが支え合う町を目指し、住民の絆を深める活動を行っています。

- (1) センターの美化活動（花壇の世話）
- (2) こども芋掘り会（センター共用畑利用）
- (3) ふれあい広場（民謡や講演を楽しむ高齢者のお茶会）
- (4) 歴史・自然・文化を通したふれあい活動（例：平山歴史勉強会、自然観察会、地域音楽家のコンサート）
- (5) 町の皆さんの物品提供によるフリーマーケット



じゃがいも いっぱい取れました

なかでも楽しみは「こども芋掘り会」です。高齢者が畑の下作りをして、ちっちゃな子供たちが苗を植え、7月、11月には皆で芋掘りです。芋は少しずつ分けます。おじいちゃん、おばあちゃん、おにいちゃんのおももも持って帰ります。その日の夕食はセンターの芋掘りの話題で暖かい会話が弾むことでしょう。

活動の楽しさ、やりがい

「町のために頑張ろう」なんてカタクは考えません。会員自身が楽しみ、少し町を向いてみんなで仲良く、互いにいたわりながら活動を続けます。



♪モーツァルトを聴こう パパパッ♪

子どもたちの成長にびっくり！

活動のきっかけ

「継続的に学ぶ場があれば」という初代会長と協力者の熱意により、七生中学校地区青少年育成会の事業としてスタートしました。現在は育成会から独立して、日野市教育委員会の日野市地域教育力活性化事業として認定を受け活動しています。



たくさんの子どもたちが
楽しく参加しています！



活動内容

主な活動は「自然観察・科学講座」、「木工工作講座」、「初歩の電子工作講座」、「ふるさと探検講座」の開講です。小・中学生を中心に市内全域の子どもが参加しています。

活動の際は、

- ・子どもの興味関心のある講座を定め、少人数制で開催し個性を伸ばす手助けをする。
- ・子どもの社会生活に必要なルールやマナーを、機会をとらえて指導する。

ことなどを心がけています。

活動の楽しさ、やりがい

いつの間にか挨拶がしっかりとできるようになったり、上級生が下級生の世話をするようになったり子どもたちの成長が実感できます。

そんな子どもたちの姿を見ていると励みになり、教える側も、楽しみながら教えることができています。

さすがオヤジ、と いわれる活動を！



活動の楽しさ、やりがい

諸活動を通じて会員との触れ合いや、様々な情報交換ができ、仕事仲間とはまた違った世界が広がります。

地域や学校と協力イベントを行っていく中で、子どもたちの笑顔や、回を重ねるごとに成長していく姿を見れた時、この会の存在意義を感じます。

活動のきっかけ

今年で活動20年です！
設立当時は学校が荒れていて先生達ではどうにもできない状態でした。

オヤジたちとのスポーツ交流を通じ、徐々に子どもたちの心が開き、話し合うことができるようになっていきました。
これがオヤジの会の始まりです。

活動内容

サマーフェスティバルとふれあいスキーが大きなイベントです。
サマーフェスティバルでは屋台とステージを子どもたちと運営します。

屋台は大人と子どもと一緒に企画します。
焼きソバの焼き方を教えたり、会場の設営をしたり各自がノウハウを持ち寄ります。



だれもが「自分らしく」暮らせる社会をめざす

活動のきっかけ

「おちかわ屋」という八百屋の開店が原点です。
府中療育センターの寝たきりの方が電動車椅子に乗ることで地域の行商ができるようになりました。
やがて行商だけでは満足できなくなり、屋台販売、そして店舗「おちかわ屋」の開設にいたりしました。
その後、小規模作業所の開設を皮切りに、NPO を立ち上げ後は次々と事業所を開設し、多様な働く場と暮らしの場を拡充してきました。

活動内容

活動は多岐にわたり、3つの部（①サポート事業部②スローワールド事業部③やまぼうしホーム事業部）で事業展開をしています。日野市市民の森ふれあいホール内のカフェも運営しています。



活動でこころがけていること

「私たちはこう生きたい・暮らしたい」という一人ひとりの障害者の思いを受け止め、少しでもできることを具体化しています。提案するだけでなく実践を何より大事にし、市民と障害者が共に働くよう市民意識を変える行動をとってきました。

これからも「できることからやっていく」をモットーに、ただただ実践することをこころがけていきたいと考えています。

「人生の出会いを大切に」 苦勞も面白さに

活動のきっかけ

昭和33年、富士山が見える地形に団地ができ、多摩平の森自治会が発足しました。

幼稚園に入れない子どもたちを集会室に集め、幼児教室を始めたのが、自治会活動の始まりです。

現在は、高齢者の見守り活動を中心に自治会活動を行っています。



ハルニックウォークで筋力アップ!

活動内容

自治会活動は、多岐にわたります。

喫茶部、広報部、文化部など専門部に分かれ活動をしています。

専門部の活動のほか、実践女子大学との連携で、ノルディックウォーク、ストレッチなどを定期的に行う「桜楓散歩会」も発足し、学生と一緒に体力づくりに励んでいます。

よみちさくら(喫茶)で 交流の輪が広がります



活動のやりがい

自治会は、約1,500世帯の大所帯です。

役員の方の仕事は多岐にわたり大変ですが、散歩会や、よみちさくら(喫茶)でみんながニコニコしている顔や、友達が友達を誘って輪が広がって行くのを見ていると「人生の出会いの大切さ」を実感します。

出会いの大切さを感じ、苦勞を面白さに変えて活動を続けています。



敬老を祝う会開いています

「自助」「共助」への努力と、支える才能 ～元気印健康クラブオープン～



元気印健康クラブオープン♪

活動内容

実施した活動は、「元気印健康クラブ」と、「土曜のひろば」です。

「元気印健康クラブ」は、自治会会員が講師となり、整体体操と、ウクレレ演奏による歌の時間、お茶の時間の3部構成です。

骨格と筋肉の作りを説明しながらの体操は、体力の改善になり、病院へ行く回数の減ったメンバーがいます。

ふれあいの場の提供として「土曜のひろば」という集いを、平成23年度まで週に一度オープンしていました。

自治会内には、まだまだ「**才能**」を隠している人がいます。手芸、料理、囲碁など、得意分野を持つ方々と、今後も活動を広げていきたいと考えています。「土曜のひろば」にかわる新たなふれあいの場の提供も、現在検討しています。

「元気印健康クラブ」は、今後、自治会内だけでなく、近隣の方にもご参加いただけるよう輪を広げていく予定です。

活動のきっかけ

多摩平四丁目自治会は、都営多摩平四丁目アパートにお住いの160世帯で構成されています。高齢になって入居された方も多く、孤立感、閉塞感を感じ元気がない方がいたため、みんなが集まる交流の場を持ちました。

自助・共助を担う自治会が、体づくり、出会いの場を提供しています。活動を支えているのは、同じ自治会の会員さん達です。



ウクレレ演奏を伴奏に
歌の時間も楽しみます♪

めざすのは、 みんなで楽しい時間を共有する空間！

活動のきっかけ

「市民会館を活性化するために何かアイデアはないか」を市民・社会教育委員・日野市文化協会会員からなる懇談会で話し合いました。そして意見を言うだけでなく実行しよう！という市民が集まってプロジェクトが始まりました。

活動内容

ひの煉瓦ホール（日野市民会館）が活性化するよう、市民が中心となって企画から運営を行っています。

これまでひの煉瓦ホール（日野市民会館）では考えられなかった会場での飲食を実施し、演奏を聴くだけでなく、飲みながら・食べながら・語り合いながら参加するスタイルが大好評です。

企画にあたっては、終了後のアンケートで、何を感じ・何を望んでいるかをお聞きし、より皆さんに楽しんでいただけるようなイベントづくりをめざしています。

活動の楽しさ、やりがい

何より「お客さんが楽しんでくれていること」に楽しさとやりがいを感じます！

また、この活動は、ボランティアの皆さんにお手伝いいただいている部分がとても大きいです。来場されたお客さんが、今度はイベントを広める側に回ってくれることも、とても嬉しいです。



気分は文化祭？公民館を楽しもう！

活動のきっかけ

公民館利用者相互の交流を図ることと、公民館運営への市民参画を目的に、1985年に発足しました。

活動内容

公民館との共催で陶芸、デジカメ、料理など各種の講座を開いたり、会員の親睦旅行など様々な活動をしています。

また、公民館利用について公民館側と利用者の声を公民館に伝えるための懇談会を開いたり、年1回の公民館まつりにも積極的に参加しています。

近年は、外部から講師を呼ぶのではなく、「講座で学んだことを講座で還す」という趣旨で、主に会員が講師となり「るーぷ塾」を開いています。

活動の楽しさ、やりがい

- ・公民館まつりには、中高年の会員が手書きの案内板等をつくったり高校の文化祭のノリで夢中で取り組んでいます。一緒にまつりをつくり上げたという思いを共有できることがこの活動の楽しさです。
- ・かつては、利用者も講座も少ない公民館でしたが、今では年間利用者数75,000人。講座も、るーぷ塾講師によるものを含め魅力的なラインナップになっています。こうなるまでの道のりに、交流会も寄与できたと感じています。



自然と一体になって、心も体もリフレッシュ！

活動のきっかけ・活動内容

相続の関係で市有地となった緑地を管理することとなったのが活動のきっかけです。

現在は倉沢里山の保全のほか、農地の拡大活動や貸農園の運営もしています。

具体的には、下草刈りと落葉掃き等、雑木林と農園の日常的な維持・管理や、里山内の希少な動植物の保護育成を行っています。



都内に残る貴重な里山です



活動の楽しさ

実際に活動することで、自然に生かされていることを実感できます。

きれいな空気の中でワイワイ楽しくやっており、心も体も元気になれます。作業で汗をかき、その後に野外の炊事場でお昼をつくって皆で食べるのも楽しみのひとつです。

また、一緒に活動することで人のつながりが生まれます。

活動する人全体で家族のように感じられ、地元の方や周辺の農家の方とも親しくなることができました。

日野市の資源と人材を活用した 「生ごみ地域内循環」のしくみづくりをめざします！



畑は、異世代交流・環境教育の場です

活動は広がっています

市内には、まちの生ごみを考える会の企画により派生した「まちの生ごみ活かし隊」や「生ごみリサイクルサポーター」の活躍など、有機資源の地域内循環活動の輪は広がっています。

まちの生ごみ活かし隊が運営する『コミュニティガーデンせせらぎ農園』では、約200世帯の生ごみを回収して無農薬・無化学肥料で野菜や花を育てることで、だれでも気軽に生ごみ循環を体験しながら学習できる『場』として、多くの方が訪れています。

生ごみの堆肥化は、農園での作業のほか、ダンボールコンポストの普及・啓発により、家庭での自家処理も進んでいます。

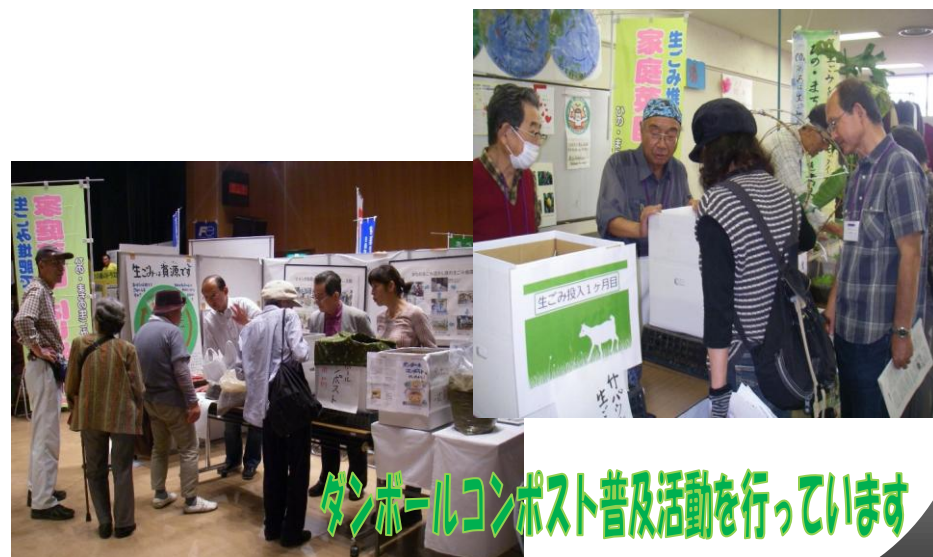
身近な「家庭の生ごみ」をテーマに、新たなコミュニティの形成がこれからも広がっていきます。

活動のきっかけ

生ごみ減量に対して学習し、自由に実践することで有機資源の地域循環を目指すことを目的として、市民の方が集まり、平成14年4月に会が結成されました。

活動内容

日野市ごみゼロ推進課と協働し、生ごみリサイクルの先進事例などを、調査研究、視察及び、市民アンケート調査などを行い、優れた事例を参考に日野市にふさわしい循環をめざし、企画・調整・普及活動を行っています。



ダンボールコンポスト普及活動を行っています

「自分で考え、行動する」ことがコツ！

活動のきっかけ

この地域は、市の端側である、浅川と斜面に挟まれているなどの事情から、災害時に避難場所へ移動することが不便な地域です。

このことから、住民は防災についての意識が高く、活発に活動してきました。



水をもらう訓練
大変さを実感！



黄色いハンカチ運動の様子

活動内容、工夫していること

年2～3回の総合訓練に加え、市の防災訓練に参加しています。

マンネリ化しないために、参加者それぞれが考えながら行動してもらうような訓練にすることをこころがけています。

・活動例1 給水訓練

実際に給水所まで片道約1.6kmを歩き、水をもらうことがどのくらい大変かを実感しました。結果、それぞれの家の備蓄が促進されました。

・活動例2 黄色いハンカチ運動

この運動は、全ての家庭に黄色いハンカチを配布し、災害時に「自分の家は無事です」というお知らせとして、家の外に黄色いハンカチを出すという運動です。

訓練には多くの家が参加しました。

農業を通じて、様々なことを楽しみながら体験！

活動内容

500年続く農家の暮らしを受け継ぐ石坂ファームハウスを舞台に、四季折々の農家の暮らしを体験できる講座を行っています。

(講座の例)

農作業・みそづくり・よもぎ団子づくり・わら細工・もちつき・焚き火など



夏恒例！そうめん流し



農業が身近に！
田植え体験

活動のきっかけ・活動目的

開始当時は、都市農業を理解してもらうために始めました。

しかし今では一つの目的をめざした活動ではなく「様々な人が集まり一緒に作業していく、その中では何が起こるか分からない」というところに意味があると考え活動しています。

田んぼや畑を舞台に、生活の知恵、都市農業への理解、伝統やそれに込められた願い、他世代との交流など、様々なことを楽しみながら体験し学んでもらえたら嬉しいと考えています。

「楽しく」そして互いに「切磋琢磨」の援農活動



援農の会 各地で活動中です

活動のきっかけ

日野市の農業基本政策と連動し、市内農業の一助となるべく、「農の学校」の修了生が自主的にボランティア組織を結成しました。

援農活動を行うことを目的にいろいろな活動をしています。

会員は、日野市の援農市民養成講座「農の学校」修了者で、20歳代から80歳代までと幅広い年齢層です。

活動内容

「農の学校」を1年間受講して、農業知識と技術を習得後、農家と会員の希望により、市内の農家へ行って作業を行います。

活動範囲は、露地、たんぼ、ハウス、果実 etc…と多岐にわたります。

活動のやりがい

メンバーは、農作業が大好きです。

携わった農地が整備されてきれいになり、作物の成長を見るのは、達成感があります。

また、農家からの感謝の言葉は、活動の励みにもなり、日野の農地や緑を残していく使命感も生まれます。

農作業は、大変な労働です。農家の高齢化によって、「援農」がより頼りにされてきています。

平均年齢64歳、「日野人・援農の会」これからも体調の管理をしながら活動を行います。

市役所も「夢と覚悟」を持って

市役所も「夢と覚悟」を持ってまちづくりに取り組んでいきます。

地域活動での困りごと・疑問に思っていることがありましたら、市役所にご相談ください。

また、市民による自主的なまちづくりを進めるため、補助金などの情報発信や人と人との橋渡しを通じて、皆さんの活動をバックアップします。

職員一人ひとりが真剣にまちづくりに取り組み、時には肩の力を抜いて地域に出て行きます。

そして、市役所だけではうまくできないことは、是非皆さんのお力をお貸してください。

何かやってみたくなったあなた。

まずは、できそうなことから

始めてみませんか。



あなたのまちはどんなまち？
あなたが意識していなくても
まちは地域の皆さんの手で作られているのです。

お子さんの過ごす学校環境

通勤途中の道のコスモス

もしもの時のご近所のまなざし

地域の誰かが頑張っているから

まちが、ひとが輝いているのです。

あなたもまちづくりに挑戦してみませんか。

きっとやりがいがありますよ？

あなたとつくる日野 公民協働事例集

発行・編集 日野市、2020を考える会

平成24年（2012年）7月発行

問い合わせ先

日野市企画部企画調整課 042-585-1111（代）